

たまねぎレポート【第399号】



令和3年1月26日

阪南青果株式会社

社内報

令和2年12月の天候は、北・西日本で気温が低かった。日本海側では、北陸地方を中心に記録的な大雪となった地域があった。太平洋側では、降水量が少なく、早魃傾向となった。沖縄・奄美では日照時間はかなり少なく、降水量はかなり多かった。1月は東日本の日本海側は、類を見ない大雪に見舞われ、太平洋側は降雨少なく早魃傾向が続いた。

気象庁の2～4月の3か月予報では、平均気温は、北・東・西日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。降水量は、沖縄・奄美で平年並みまたは少ない確率ともに40%。降雪量は、北日本の日本海側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。月別予報は次の通り。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に雪または雨の日が多い。北・東・西日本の太

平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

3月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

4月、北・東日本の日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の概況

建値市場の12月の野菜の販売量は、235,242トン前年比101%(前月比102%)、平均単価はkg¥196前年比88%(前月比101%)。やや回復の兆しが見え始めた品目も見受けられるが、依然厳しい販売環境が続いた。市場別の販売量と平均単価では、札幌市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg¥164前年比88%。東京市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg¥211前年比87%。名古屋市場の販売量は前年比108%、平均単価はkg¥183前年比89%。大阪本場の販売量は前年比104%、平均単価はkg¥193前年比90%。福岡市場は前年比102%の販売量で、平均単価はkg¥161前年比96%となっている。

建値市場の12月の玉葱の販売量は28,925トンで前年比107%、(前月比113%)、平均単価はkg¥72前年比97%(前月比101%)。コロナウイルスの影響で家庭消費が伸び、数量的には前月比2桁増となっているが、価格は

前月に続き平年水準をかなり下回った。府県産や輸入物が減少したが、北海産が前年比109%と増加した。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,937トン前年比109%、平均単価はkg¥58前年比89%。東京市場の販売量は9,929トン前年比104%、平均単価はkg¥76前年比98%。名古屋市場の販売量は7,969トン前年比103%、平均単価はkg¥71前年比98%。大阪本場の販売量は4,753トン前年比116%、平均単価はkg¥74前年比100%。福岡市場の販売量は2,337トン前年比111%、平均単価はkg¥81前年比99%となっている。

建値市場の9～12月の玉葱の販売量の集計値は、109,531トン前年比105%、内北海物は105,158トン前年比109%、府県産+輸入物は4,373トン前年比55%で、北海物の販売が前進化していることが窺える。亦、ホクレンの生食向けの年内出荷計画は270,000トン前年比107%(年内進捗64.3%)となっている。加工・輸出を含めた出荷量の試算は後日になるが、年内の市場向け出荷は計画の64%前後に達していると推測される。

日本農業新聞社の、主要7地区代表荷受7社の12月の主要野菜14品目の販売データの集計値では、販売量が101,710トン前年比3%増、平均単価はkg¥111前年比10%安、平年(過去5年平均値)比20%安で、最安値を更新した。販売量が前年比増となった品目は、キュウリが前年比19%増、ハウレンソウが14%増、ニンジン・ハクサイが11%増など9品目。販売量が前年比減となった品目は、タマネギ・サトイモが前年比6%減、結球レタスが4%減、など5品目。価格が前年比高となった品目は、ジャガイモがkg¥118で前年比66%高、ネギがkg¥324で6%高の2品目だけ。前年比安となった品目は、キュウリがkg¥300で前年比38%安、ハクサイがkg¥35で30%安、結球レタスがkg¥123で前年比28%安など12品目。タマネギはkg¥61で6%安となってい

る。(タマネギの販売量は前年比で建値市場集計値は105%、農業新聞の地区代表荷受集計値は94%。集計値に大差が出ている)

東京都中央卸売市場の12月の野菜の入荷量は、127,864トン前年比99%(前月比103%)。平均単価はkg¥211前年比87%(前月比101%)で低迷歩調が続いた。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、ホウレンソウが前年比121%、キュウリが116%、ピーマンが115%など7品目。入荷が前年比減の品目は、ダイコン・レタスが前年比91%、キャベツが95%など8品目。価格が前年比高の品目は、バレイショがkg¥142で前年比162%、ネギがkg¥328で107%、ナマシイタケがkg¥1,042で103%など4品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg¥30で前年比55%、レタスがkg¥144で65%など11品目となっている。

東京都中央卸売市場の12月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	127,864	98.7	103.3	211	87.4	101.0
た ま ね ぎ	9,929	103.8	108.9	76	98.4	101.3
キ ャ ベ ツ	13,235	94.5	87.8	63	89.5	101.6
レ タ ス	6,941	91.2	97.5	144	58.8	120.0
は く さ い	16,416	103.9	106.5	30	56.9	88.2
だ い こ ん	10,717	90.8	90.9	63	93.4	106.8
ば れ い し ょ	8,572	96.8	125.8	142	162.2	103.7
き ゆ う り	4,505	115.9	88.8	346	63.4	109.5
に ん じ ん	8,988	111.2	120.7	115	91.0	84.6
ト マ ト	4,830	95.6	96.7	342	85.7	74.0

ね	ぎ	5,551	95.7	107.3	328	106.7	107.9
か	ぼ	2,364	81.8	97.1	218	101.4	137.1
な	が	958	107.8	119.9	318	112.3	99.1
れ	ん	1,388	112.7	136.9	375	78.0	114.3
に	ん	260	78.2	123.8	1,170	158.4	102.9

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の12月の玉葱の入荷量は9,929トン前年比104%（前月比109%）で、前月同様北海物の占有率は高く、北海物主導の販売となった。北海物の入荷は9,670トン前年比106%、占有率98%前年比2ポイントアップ。中国物が154トンで前年比66%、占有率2%前年比1ポイントダウン。佐賀物が64トンで前年比49%。総平均単価はkg¥76前年比98%（前月比101%）で横這い市況が続いた。産地別では、北海物はkg¥74前年比98%。中国物はkg¥96前年比99%。佐賀物（冬採り）はkg¥259前年比240%となっている。

1月に入り、寒波に依る日本海側の大雪の影響で輸送が乱れ、入荷の少ない日が続いたが、上旬の北海物の販売量は前年を大幅に上回った。入荷の乱れで、引き合い強く市況は強含みとなったが、不安材料が多く需給見通し難から値上がりには至らなかった。静岡の新物は初市から入荷し、例年に比べ割安の幕開けとなったことで、活発な売り込みを始めたものの、思ったほどの入荷がなく昨今も品不足となっている。現在、愛知物も少量入荷しているが、静岡物に比べると見劣りする。北海物はJA物を主力に順調な入荷だが、月末を控え買い方の様子見で荷動きは鈍い。

1月初市～19日の販売量は、5,569トン前年比123%、総平均単価はkg ¥94前年比99%。産地別では、主力の北海物は4,895トン前年比124%、平均単価はkg ¥80前年比103%。静岡物は571トン前年比151%、平均単価はkg ¥206前年比82%。中国物は81トンで前年比63%、平均単価はkg ¥104前年比100%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の12月の玉葱販売量は7,969トン前年比103%（前月比128%）で前年比増、前月比大幅増となっている。前月同様北海物が100%弱を占め北海物の独壇場であった。

北海物の販売量は7,937トン前年比103%、占有率は99%強で前年と同じ。中国物は23トン前年比181%。総平均単価はkg71前年比97%（前月比100%）で、横這いで推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥71で前年比99%。中国物はkg ¥88前年比105%となっている。

1月に入り、大雪による輸送の乱れで着荷が減少。コンテナヤードに仮置きしていたストック品を販売。荷動きはまずまずで、月後半の値上げ要請を意識して安売りを控えている。静岡物の入荷は少なく、積極的な売り込みは出来ない状態が続いた。現在も北海物主力の販売で、北海物の入荷は順調だが、荷動きはまずまずである。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の12月の玉葱の販売量は、4,753トン前年比116%（前月比107%）で前年比、前月比ともに増となっている。北海物主導の販売で北海物の販売量は、4,309トン前年比127%、占有率91%前年比8ポイントアップ。兵庫物は433トン前年比63%、占有率9%前年比8ポイントダウン。総平均単価はkg ¥74前年比100%（前月比104%）で前月と同様の活

気のない日が続き、コロナ禍で人の往来が少なく、年末の市場は例年になく静かであった。産地別の月間平均単価は、潤沢な北海物はkg ¥65で前年比96%。品薄の兵庫物はkg ¥164で前年比154%であった。

1月に入って、初市は北海・兵庫のヒネ物は保合、静岡の新物は例年比割安の幕開けとなった。東北地方の大雪でJRが不通となり、月半ばの入荷は減少し、北海物は仲卸に数量配分する状態となった。静岡物も予想外に入荷が少なく特定の店舗に数量配分となった。JRの輸送が正常に復帰したことで、下旬の北海物の入荷は潤沢で市況は弱含みの展開となった。兵庫の冷蔵物は、今年劣化が早く人气が離散している。北海物は入荷多く、価格維持は難しくなっている。静岡物は不安定な天候に阻まれ、入荷が少なく品不足が続き、スーパー等との契約量が確保できず苦慮している。

1月5日～19日の入荷量は2,146トン前年比112%、平均単価はkg ¥89前年比99%。産地別では、主力の北海物の入荷は1,867トンで前年比134%、平均単価はkg ¥73前年比106%。兵庫の冷蔵物の入荷は186トン前年比46%、平均単価はkg ¥181前年比157%。静岡物は90トンの入荷で前年比73%、平均単価はkg ¥229前年比95%となっている。新年早々の日本海側の豪雪があったものの、1月上・中旬の野菜の入荷は前年比96%、平均値は前年比112%で入荷減の価格高であったが、玉葱は入荷増の価格安であった。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の12月の玉葱販売量は、2,337トン前年比111%（前月比108%）で、前年比、前月比ともに大幅増となっている。前月に続き北海物の寡占化が進み北海物主導の販売となっている。北海物の販売量は2,150トン前年比120%、占有率は92%前年比7ポイントアップ。中国物は136ト

ンで前年比69%、占有率は6%前年比3ポイントダウン。香川物は32トン前年比69%、占有率は1%で前年比1ポイントダウン。総平均単価はkg¥81前年比99%(前月比108%)。産地別月間平均価格は、北海物はkg¥78前年比98%。中国物はkg¥83前年比100%。香川の冷蔵物はkg¥171前年比178%となっている。

1月に入って、東北地方の大雪に依る輸送障害で、北海物の入荷は減少傾向で、引き合いが強く、相場は堅調に推移した。今週は輸送が正常化し、入荷が順調で荷動きは鈍化傾向となっている。此の先の販売は、需給バランスを考えながら価格維持に努めたい。長崎物は JA 雲仙の入荷が始まっているが、連続入荷は2月になる。

1月初市～19日の玉葱の販売量は992トン前年比93%、平均単価はkg¥94前年比110%。数量減の単価高となっている。

1月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷136トン 強い 相対売りでセリ売りなし

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,200、L大 ¥1,500～1,200、L ¥1,300～1,200。

静 岡 10kgDBL ¥2,600～2,500、 M ¥2,500～2,400。

【太田市場】 入荷279トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥1,600～1,400、L大 ¥1,600～1,400、L ¥1,500～1,300、
M ¥1,400～1,200。

静 岡 10kgDB2L ¥1,900～1,800、L ¥2,300～2,200、M ¥2,300～2,200、
B ¥1,800～1,700。

愛 知 10kgDB2L ¥1,700～1,600、L ¥2,100～2,000、M ¥2,100～2,000、
B ¥1,800～1,700。

【名古屋北部】 入荷189トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500~1,400、L大 ¥1,500~1,400、L ¥1,400~1,300、
M ¥1,200~1,100。

静 岡 10kgDB2L ¥1,800~1,700、L ¥2,200~2,100、B ¥1,700~1,600。

愛 知 10kgDB2L ¥1,600~1,500、L ¥2,000~1,900、M ¥1,900~1,800。

【大阪本場】 入荷293トン 弱い

兵庫冷 10kgDB2L ¥1,400~1,200、L ¥2,000~1,600、M ¥1,600~1,500、

北 海 20kgDB2L ¥1,500~1,400、L大 ¥1,600~1,400、L ¥1,400~1,300、
M ¥1,200~1,100。

静 岡 10kgDB2L ¥2,300~2,000、L ¥2,800~2,500、M ¥2,300~2,100、
B ¥2,300~2,000。

【福岡市場】 入荷65トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,700~1,500、L大 ¥1,700~1,500、L ¥1,500~1,400、
M ¥1,300~1,200。

長 崎 10kgDB2L ¥2,200~2,000、L ¥2,500~2,300、M ¥2,500~2,300。

供給(産地)の動き

北海産の85%強を保有するホクレンでは、年内の生食向け出荷は順調で計画通りと報告されている。全道的に歩留まりが向上し、出荷量は前回計画比7,000トン増となったが、増加分は輸出で吸収される模様。輸出は、台湾、韓国、ロシア等へ既に38,000トン(前年17,000トン)が出荷されている。現在、新型コロナウイルスの影響で外食需要が落ち込んでいるものの、市場向け出荷は前年を上回っており、産地サイドでは、昨年のような春季の品余り現象は起きないと見ている。

府県産の冷蔵物の越年在庫は、10,500トン前年比54%で、出荷は前進化し切り上がりは、2月末の予想で例年より1か月以上早まる予想。早生物は、年始から静岡産の出荷が始まっている。12月時点では生育の前進化が予想され、1月出荷は前年比25%増の計画となっている。東京・大阪の拠点市場へは前年を上回る出荷となっているものの、年明けの低温旱魃の気候に阻まれ、生育・出荷はやや停滞気味で、各地の市場から出荷の督促が続いている。続く愛知、長崎、佐賀も雨不足で生育は前年よりやや後ズレしている。

2～4月の輸入は、業務・加工筋の原料在庫は潤沢であり、現地価格の高値から新規の成約が進んでいない。数量的には前年比80～85%程度と予想している。

令和2年9月～12月の輸入量は75,089トン(前年85,673トン)で前年比88%で前年よりも10,584トン少ない。

北海道産地

ホクレンを始め流通業者の年内出荷は順調で、越年在庫過多の懸念は解消されつつある。年始の出荷開始直後に、東北地方が豪雪に見舞われ、JRを始め大規模な輸送障害が発生し出荷が一時停滞したが、月後半には正常に復帰した。輸送障害により各地市場の相場は一時期品薄高となったが、現在は落ち着き強含みで推移している。今シーズン産は過去最多の出回り量となったが、府県産の減産や輸入物の減少のほか北海産の大幅な輸出増で、年内出荷は予想を上回り、年明けの需給は過剰から均衡に転じ、産地関係者の多くは現在の市況水準が底値と受け止め、此の先の回復を期待している。

府県産地

府県産の早生物は、静岡物が例年通り、初市から出荷が始まり、天候不順に見舞われながらも概ね計画通り推移している。本年の作付は169ha前年比

103%、出荷計画は前年並みの7,602トンで2月重点の出荷となっている。最近の降雨続きで、出荷は停滞しているが、天気回復次第出荷は正常に復帰する予想。

続く愛知物も年内の生育が順調で出荷の前進化が提唱されていたが、年明けの寒波と少雨の天候で生育は停滞気味となり、一部で出荷が始まったばかりである。長崎物も不順な天候に阻まれ、生育は停滞している。一部で抜き採り出荷が始まっているが、総掘りはやや遅れて2月の節分明けになる。島原地区の作付けは前年並みだが、諫早(長田)地区の早生は、圃場整備事業の関係で、前年比10~15%の減反が予想されている。

佐賀では遅れていた定植も前週には終了した。今シーズンの作付面積の詳細は後日になるが、中心産地を見る限りでは、早生系は前年並み、中晩生系は前年比10%前後の減反になると予想している。早生の初期生育は早魃の影響で停滞したが、適宜灌水を実施した生産者の圃場は生育順調である。早生系の生育は、早魃のあと低温多雨に見舞われ、生育は10日程度遅れている。早生の出荷開始は、此の先の天候に依るが3月になる予想である。

兵庫の冷蔵物の越年在庫は、先月報告した通り、過去最少量で、近年にない少量で、既に2月は終盤期に入る。次シーズンの栽培予想面積は、前年並みの1,383haで早生系21%、中生系59%、晩生系20%と見込まれている。初期生育から早魃・低温に見舞われ、冬季の徒長は見受けられず、生育はやや遅れ気味で、早生の出荷は4月後半からになるが、品質の良い玉葱が収穫出来ると期待している。

輸入動向

12月の輸入は、速報値で18,743トン前年比85%。コロナウイルスの影響で、業務・加工筋の需要が落ち込んでいることや、北海産の豊作で原料供給

が潤沢なことで、輸入は減少傾向が続いている。主力の中国物の輸入量は18,458トン前年比86%、アメリカ物が285トン前年比53%となっている。

中国、主力産地の甘粛省は終盤を迎えている。内陸部の産地は、低温被害に見舞われ、3月出荷の雲南省も作付減で、在庫が・生産ともに少なく、韓国向けの注文増等の対応もあり、現地価格は値上がりが続いている。他方、国内マーケットも野菜全体に堅調で、玉葱も一段高の動きとなっている。現在、日本向け剥き玉価格は、20kg・C&F・\$13.50~13.00に値上がりしている。

アメリカ、1月1日現在の全米在庫は前年比98%弱と少ないが、新型コロナウイルスの影響で、外食需要が低迷し、国内マーケットは値下がり傾向で、日本向けオファー価格は、Jサイズ50㍉・C&F・\$11.00になっている。

ニュージーランド、今シーズンの作付面積は前年比99%の微減。内、黄玉は前年比94%、赤玉は106%と報告されている。11~12月は好適な天候に恵まれ、生育は順調で、今シーズンの輸出は185,000トンを計画している。現在、日本向けのオファーは、70~80mm・C&F・¥1,100となっている。

2月の市況見通し

昨年から新型コロナウイルスの影響で、長期に亘り訪日客の激減を始め、人の往来が自粛され、飲食店の営業時間短縮等、食料の需要に大きな変化を生じた。野菜は巣籠り需要で家庭需要は増加傾向となり、玉葱も市場販売量は前年を上回った。2月以降は春商材の新物と北海道のヒネ物の併売となり、日を追って新物が増加する。今年は年始から出荷が始まっている静岡物の市場価格が例年より安く、産地関係者の期待外れとなっている。市場では引き合いが活発で、品薄傾向が続いている。静岡に続く愛知、長崎は天候不順で生育が停滞し、出荷の後ズレと収量減が懸念されている。

2月期は通常、市況の上昇・下落の分岐月となることが多い。今年は、新型コロナウイルス禍の影響で、見通し難であるが、前年同月に比べると、需給は過剰から均衡へ、均衡からタイトに向かう可能性がある。2月の中心市況は前年比高で、北海物20kg・L 大¥1,600~1,400。静岡物10kg・L ¥2,500~2,200。を予想している。(了)